

日本めん用の小麦品種「さとのそら」は追肥重点体系で栽培することにより収量が高まる

福島県農業総合センター 作物園芸部 畑作科、浜地域研究所

1 部門名

普通畑作物—小麦—施肥法

2 担当者名

大寺真史、吉川学

3 要旨

県内での作付面積が拡大しているめん用小麦品種「さとのそら」は、穂数が多い一方で、収量がやや低いことが問題であった。そこで、「さとのそら」の収量を高めるための窒素施肥体系を検討した結果、全量の4~7割程度を追肥（幼穂形成期）で施用することで、標準的な窒素施肥体系（基肥 1.0 kg/a + 追肥 0.3~0.4kg/a）よりも収量が高まることを確認した。

(1) 収量が高まる主な要因は、一穂稔実粒数と千粒重の増加であった（表1）。

(2) 追肥（幼穂形成期）については、郡山市は3月上旬、相馬市は1月上旬に施用した。

表1 施肥体系別の成熟期の収量とその関連形質

試験場所	区名	成熟期 (月/日)	*1	同左比 (%)	一穂稔実粒数 (粒)	*1	*1	*2
			収量 (kg/a)			千粒重 (g)	容積重 (g/L)	検査等級 (1-7)
郡山市	基肥1.0N + 追肥0.3N	6/8	60.3	(100)	25.3	41.5	749	3.6
	基肥0.7N + 追肥0.6N	6/8	67.1	111	27.9	42.1	754	3.7
	基肥0.3N + 追肥1.0N	6/8	68.5	114	29.8	42.4	762	3.9
相馬市	基肥1.0N + 追肥0.4N	6/5	61.2	(100)	22.3	42.6	765	5
	基肥0.7N + 追肥0.7N	6/5	63.2	103	22.3	43.0	767	5
	基肥0.4N + 追肥1.0N	6/5	69.4	113	23.1	43.6	767	5

注1) 郡山市：福島県農業総合センター、相馬市：福島県農業総合センター浜地域研究所

注2) 郡山市のデータは2022年産、2023年産の平均値、相馬市のデータは2023年産の値。

注3) 区名のN（窒素）の単位は(kg/a)。P₂O₅:K₂O=1.0:1.0 (kg/a) は基肥施用時に単肥で施用+堆肥100 (kg/a)。

注4) 播種量は郡山市が各区とも1.0kg/a、相馬市が各区とも0.8kg/a。

*1 篩目2.0mmで調製し、水分12.5%に換算した値。

*2 農産物検査機関による7段階の評価。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3~7年度

(2) 研究課題名 畑作物の高品質・安定栽培技術の確立、浜通りにおける大規模水田利用支援技術の開発

5 主な参考文献・資料

なし